

肝心かなめの 肝臓 のはなし

8

香川大学医学部消化器・神経内科教授
正木 勉

B型慢性肝炎の再活性化

免疫抑制剤やがんの化学療法で発症

これまで2カ月にわたり、B型肝炎ウイルスの治療法について書いてきました。

しかし現在のところ、一度B型肝炎ウイルスに感染すると、肝細胞の核の中に大変安定したB型肝炎ウイルスが存在してしまします。そして免疫機能が極

度に低下した際や、がんなどの病気により、体力が低下した状態で化学療法を行った際に、核内のウイルスは再び増殖して死亡率の高い重症肝炎を引き起こす場合があります。

核酸アナログで増殖を抑制

昨今、さまざまな抗がん剤、バイオ製剤、免疫抑制剤などが開発され、人類は大きな恩恵を被りました。

一方で、これらの薬剤は免疫機能を抑制させる場合があります。そのため、HBs抗原の陽性者（B型慢性肝炎感染者）が抗がん剤、バイオ製剤、免疫抑制剤などを使用する時は、同時に核酸アナログを投与し、B型肝炎ウイルスの増殖を抑えま

す。HBs抗原が陰性でも、検査時に既に感染したことがあると判明した患者さんは血中のHBVDNAをチェック。初めは陰性であっても、モニタリング中に陽性になった場合は、核酸アナログを投与します。

免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン

